

中の男女心をひとつにして、別時念佛を始めに彼番帳を佛前におきたり、亂入する事なかれといふ、こゝに疫神のいはく、汝がいふことまことにまかり、然ば番帳を披見すべしといふ、主すなはち是を見するに、疫神隨喜せる氣色にて、結衆の名字の下ごとに判形を加てけり、いはく、我一人の息女あり、他所にありといへども、彼名字を書て此念佛にいれんとおもふ、疫神これをゆるさすと見て夢さめぬ、其夜あけて番帳を見れば、實に名字の下ごとに判形あり、いろはの字を書損せるがごとし、其色焼驗をしたるに似たり、夢にたがへず家内の老少いさ、かもつ、がなきに、かの他所にある息女は、此病にて終にけり、此事其聞ありて、彼番帳をば將軍家へめされてけり、是併祇園部類眷屬等も、みな融通念佛の結衆にて御坐ば、彼異類異形と申も別のものにあらず、皆祇園部類眷屬ともなれば、元より此念佛衆に入たる疫神也、眞實に深志を致して、道場を莊嚴して番帳をくり、明日より別時念佛を始め信心の誠色にあらはれければ、行疫神も番帳に判形を加へ、隨喜して過にけり、

〔園太曆〕康永四年九月十九日、天下依有病事、被行御祈例、

文永元年七月上旬以來、咳病流行、建治三年秋以來、天下病患流布、

〔看聞日記〕應永廿七年二月十八日、去年病惱本腹被果立願云々、抑去年炎旱飢饉之間、諸國貧人上洛、乞食充滿、餓死者不知數、路頭ニ臥云々、仍自公方被仰諸大名、五條河原ニ立假屋引施行、受食醉死者又千万云々、今春又疫病興盛、万人死去云々、天龍寺相國寺引施行、貧人群集云々、明盛法橋自十一日受件病、以外大事也、不便々々、盛源總罷出、聞知識龍山雖被禁獄、無咎之由申披、自樓被出、追放云々、

〔多聞院日記〕天文三年二月三日、予歲十七口ニ母ヲ送テ、釜口靈山院忌中、三月ノ初、疫病煩ヒ、既ニ死ントス、師英磐ヨリ爲祈禱、大般若トモ轉讀卷數并赤童子蓮成院所持本尊下給、前後不覺、入夜ウツ、